

楽しい省エネ生活で、家計も助かり豪華賞品も獲得？ 第1回牧之原市 笑呼 キャンペーン

市ではことし1月から2月にかけて、市民と協働で節電キャンペーンを行いました。

あなたが使っているその電気は、本当に必要な電気ですか。

6月は環境月間です。この機会に、環境保全のためにできることを一緒に考えてみましょう。

問い合わせ 環境課 ☎2609

環境の日・環境月間

6月5日は「環境の日」です。1972年6月5日からスウェーデンのストックホルムで開催された「国連人間環境会議」を記念して、同年12月に「世界環境デー」と定められました。日本では、平成5年の「環境基本法」の制定時に記念日として設けられました。

6月の1カ月間は「環境月間」として、環境省や地方自治体、企業などによって、環境セミナーや展示会などさまざまな行事が全国各地で開催されます。6月2日には、市内でも環境月間県民大会が開催されます。

まず家庭から始めよう

私たちは、日常生活において多くの二酸化炭素を排出しながら暮らしています。それでは、二酸化炭素排出量を減らすにはどうしたらよいのでしょうか。

家庭では二酸化炭素の約4割が電気から排出されています。つまり、二酸化炭素排出量の削減には「節電」が最も効果的ということになります。そこで、家庭内の電気使用量を減らしてもらうために、昨年9月から省エネに関心のある主婦を中心に実行委員会を組織し、協働で節電キャンペーンを行うことになりました。

笑呼キャンペーン開始

このキャンペーンは「苦しい節約ではなく、エコで笑いを呼び、楽しくエコ生活を送る」ということから「牧之原市笑呼キャンペーン」と名付けられました。

参加したのは192世帯。ことし1月から2月までの1カ月間の電気を昨年同月と比較して、10パーセント削減することを目標に、節電にチャレンジしました。

電気料の検針票には、前年同月の使用量が掲載されているため、1枚で容易に比較ができます。

参加者は2月分の検針票と感想などを提出する、という簡単な方法で実施しました。

半数以上が削減目標を達成

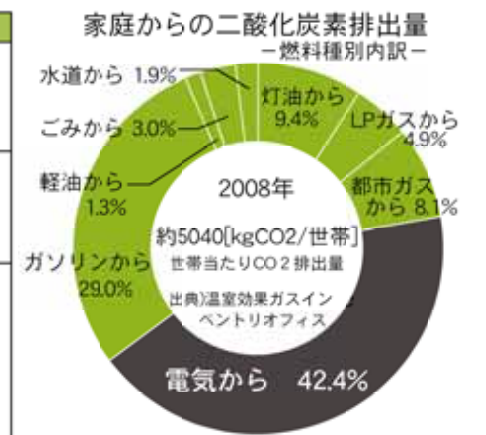
ことしの冬の寒さは例年以上であったため、参加者の感想からは苦勞したことが伝わってきますが、家族で協力して、楽しいエコ生活を実践できたという意見が大半でした。

参加した192世帯のうち、目標の10パーセント削減に成功したのは100世帯。

145世帯が、前年からの削減に成功しました。

優秀賞、エコ家族賞、実行委員会特別賞の受賞者は次のとおりです。

賞	順位	地域	氏名	削減率	賞の内容
優秀賞	1位	波津	山本明男	54.24%	家族の人数減がなかった世帯の中で、前年同月からの削減率上位3世帯です。
	2位	相良	後藤小裕美	54.15%	
	3位	細江	望月 正	54.05%	
エコ家族賞	1位	菅山	村松浩明	電気使用量を世帯人数で割り、1人当たりの電気使用量が少なかった上位3世帯です。	
	2位	細江	望月 正		
	3位	川崎	鈴木敬子		
実行委員会特別賞		細江	鈴木孝尚	素晴らしい取り組みや楽しい体験談を報告してくれた世帯です。	
		細江	上野貴康		
		川崎	関 津枝		
		神寄	森田 武		
		須々木	山本文良		



優秀賞(第1位)
波津区 山本明男さん
削減率 54.24%



賞品目録を手にする山本さん
笑顔は達成感にあふれていました

▼外灯やトイレの暖房を切り、エアコン、ホットカーペット、オイルヒーターを使わないようにしました。しかし、ことしの冬は寒かったです！電気のありがたみがよく分かった1カ月でした。

泣きながらやりましたが、工夫すればできると思えました。

泣いた笑ったわが家の体験談

細江区 鈴木さん
▼冷蔵庫の中身を必要な物だけにし、置き場を決めて、空いたらすぐ取り出せるよう工夫しました。全ての電化製品をスイッチ式コンセントに切り替えました。

細江区 上野さん

▼夜8時からアロマタイムとして電気を消し、ろうそく(アロマ)をつけて、家族でゆっくりお話しタイムにしました。子どもたちはなるべくテレビを見ずに、絵本を読んだりパズルで遊んだりしました。

川崎区 関さん
▼服を1枚多く着て、子どもと「おしくらまんじゅう」をして体を温めたりしました。子どもから「もったいないから電気消すよ」と、積極的な姿が見られてうれしかったです。夜、早く寝るようになり、どうしたら暖かくなるかと家族のコミュニケーションも増え、楽しく過ごせました。

神寄区 森田さん

▼「人の居ない部屋の電気は必ず消す」「同じ部屋で一緒に過ごす時間を増やす」などを決めました。一家だんらの時間が増え、無駄な電気の使用を減らす癖が身につきました。

須々木区 山本さん

▼カーペットの下に断熱マットを敷きました。少人数の場合はこたつの温度を弱にして、ファンヒーターを共用しました。風呂に入る間隔を、なるべく空けないように心掛けました。

一人一人の小さな積み重ねが大きな効果に

削減に成功した家庭全体の二酸化炭素削減量は、6.7トンでした。これは2リットルのペットボトルで175万6千本にもなります。

一人一人の小さな削減でも、全員合わせれば大きな効果となりました。まさに、塵も積もれば山となるです。家庭の中で特に電気消費量が多いのは、エアコン、冷蔵庫、照明、テレビの4つです。

家族が別々の部屋で過ごす時間が増えていますが、例えば、食事やテレビを見る時など一家だんらの時間は、家族みんなの一つの部屋に集まれば、照明やエアコンなどの節電につながります。

また、早寝早起きは健康にとって良いだけでなく、夜の消費電力を抑えることにもなります。

参加者からも「早く寝るようになり家族のコミュニケーションが増えた」という感想がありました。

笑呼キャンペーンには、節電だけでなく、こんな効果もあるのです。小さなことでも、自分たちができることを着実に実行していけば、それはやがて大きな力になります。今一度、生活のあり方を見直し、環境にやさしいライフスタイルを築いていきましょう。

賞品確保や事業PRなど実行委員も大活躍！

▶賞品は実行委員の足で確保

実行委員が自ら商店や企業を訪問し、協賛を呼び掛けた結果、「FDAで行く札幌往復航空券」をはじめ40事業所から約200個の賞品が集まりました。

▶スーパーにも協力依頼

市内スーパー8店舗からレジ袋の有料化取益金を寄付してもらい、財源にしました。

▶産業フェアでもPR

昨年秋の「まきのはら産業フェア2010」に出展し、参加を呼び掛けた結果、多くの申し込みがありました。

笑呼キャンペーン実行委員会 会長 今野朝子さん



第1回のキャンペーンということで、手探りの中で始めましたが、多くの皆さまに参加いただきうれしく思います。エコをきっかけに家族の絆が深まったという意見が多くあり、思わぬ効果に委員一同幸せな気持ちになりました。現在、震災の影響で家庭での節電が叫ばれている中、今回の取り組みを参考に、多くの皆さんに節電を実施していただければと思います。キャンペーンに協賛いただいた事業所などの皆さまに、深く感謝申し上げます。